

鹿児島県の孤立化するおそれのある集落に  
関する状況調査

調 査 結 果

令和8年3月

鹿児島県危機管理防災局災害対策課

## 目 次

1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象とした集落	1
(3)	孤立化の定義と孤立化のおそれのある集落の例	1
(4)	調査方法と調査項目	2
(5)	調査期間	2
2	調査結果	3
2-1	市町村別の孤立化するおそれのある集落数	3
2-2	市町村別の孤立化するおそれのある集落の状況	4

# 1 調査の概要

## (1) 調査目的

本県の孤立化するおそれのある集落に係る状況については、現在、国（内閣府）が平成26年2月～9月に全国調査を行い、平成26年度に公表した調査結果の内容が基礎データとなった。

一方、県内の孤立化集落対策については、市町村、県、防災関係機関等が更なる連携を図り取り組んでいく必要があり、各市町村における孤立化するおそれのある集落の現状把握（フォローアップ）を行うとともに、その状況を共有することが重要と考えている。

このため、本調査は、本県における孤立化集落対策の検討のため、平成25年度の国の調査手法等を参考に、孤立化するおそれのある集落の現状を再確認するために実施したものである。

## (2) 調査対象とした集落

農林業センサス（2020年）における農業集落のうち、「中間農業地域」及び「山間農業地域」、漁業センサス（2018年）における全ての「漁業集落」を対象とした。

## (3) 孤立化の定義と孤立化のおそれのある集落の例

### ① 孤立化の定義

以下の要因等により、道路交通及び海上交通による外部からのアクセス（四輪自動車で行き来可能かを目安）が途絶し、人の移動や物資の流通が著しく困難もしくは不可能となる状態とする。

- ・ 豪雨や地震等に伴う土砂災害、道路への堆積土砂及び道路構造物の損傷など
- ・ 地震に伴う液状化による道路構造物の損傷など
- ・ 津波による道路構造物の損傷、流出物の堆積など
- ・ 地震または津波による船舶の停泊施設の被災など

### ② 孤立化のおそれのある集落の例

- ・ 集落につながる道路において、迂回路がない。
- ・ 集落につながる道路において、落石や崩土等の発生が予想される道路災害の危険箇所（交通途絶予想箇所など）が存在し、交通途絶の可能性が高い。
- ・ 集落につながる道路において、橋梁等の道路構造物の耐震化がされておらず、交通途絶の可能性が高い。
- ・ 土石流やがけ崩れなど土砂災害の発生が予想され、交通途絶の可能性が高い。

（道路については、四輪自動車が通行可能な道路とする。）

- ・ 地震又は津波による被災状況によっては、船舶の停泊施設が使用不可能となる可能性が高い。

#### (4) 調査方法と調査項目

上記(2)の対象集落について、県内市町村に対し、(3)で示した条件を基本として、集落の孤立可能性の有無等を調査した。また、上記対象集落以外でも、市町村からあげられた孤立化するおそれのある集落と認められた集落も調査の対象として追加している。

なお、調査項目は以下のとおり。

- ・ 孤立化するおそれのある集落の有無
- ・ 交通途絶となる要因について
- ・ 当該地区及び集落内に存在する避難所（公民館、集会所など）について
- ・ 当該地区及び集落での生活用品等の備蓄量について（家庭等の個人備蓄は除く）
- ・ 情報通信手段の状況
- ・ 情報通信手段の機器の扱い
- ・ 使用を想定した情報通信手段に障害が発生した場合の他の連絡方法
- ・ ヘリコプターの離着陸場の候補地
- ・ ホイストを使って人員等の昇降ができる場所
- ・ 各市町村における受援計画（マニュアル）作成の有無
- ・ 孤立化するおそれのある集落における地区防災計画の有無
- ・ 自主防災組織の結成状況及び活動状況
- ・ 当該地区及び集落内での救助資機材の有無（内容・数量）

#### (5) 調査期間

令和7年2月25日～令和7年4月25日（回答の時点は令和7年3月31日）

## 2 調査結果

### 2-1 市町村別の孤立化するおそれのある集落数

振興局・支庁	市町村	一次抽出集落数	孤立化の可能性あり	割合
鹿児島	鹿児島市	236	2	0.8%
	日置市	250	4	1.6%
	いちき串木野市	148	1	0.7%
	三島村	5	4	80.0%
	十島村	19	7	36.8%
南薩	枕崎市	75	0	0.0%
	指宿市	67	24	35.8%
	南さつま市	210	49	23.3%
	南九州市	119	0	0.0%
北薩	阿久根市	99	1	1.0%
	出水市	116	7	6.0%
	薩摩川内市	454	1	0.2%
	さつま町	236	0	0.0%
	長島町	90	5	5.6%
始良・伊佐	霧島市	372	30	8.1%
	伊佐市	255	1	0.4%
	始良市	199	5	2.5%
	湧水町	114	13	11.4%
大隅	鹿屋市	141	3	2.1%
	垂水市	150	7	4.7%
	曾於市	455	7	1.5%
	志布志市	130	7	5.4%
	大崎町	43	12	27.9%
	東串良町	1	0	0.0%
	錦江町	96	0	0.0%
	南大隅町	116	12	10.3%
	肝付町	136	18	13.2%
熊毛	西之表市	113	4	3.5%
	中種子町	4	0	0.0%
	南種子町	67	0	0.0%
	屋久島町	41	2	4.9%
大島	奄美市	81	17	21.0%
	大和村	15	10	66.7%
	宇検村	20	9	45.0%
	瀬戸内町	60	1	1.7%
	龍郷町	25	6	24.0%
	喜界町	5	0	0.0%
	徳之島町	18	0	0.0%
	天城町	5	0	0.0%
	伊仙町	2	0	0.0%
	和泊町	2	0	0.0%
	知名町	3	0	0.0%
	与論町	5	0	0.0%
計	4798	269	5.6%	

うち、一次抽出以外に孤立化のおそれがある集落(20)

うち、一次抽出以外に孤立化のおそれがある集落(17)

## 2-2 市町村別の孤立化するおそれのある集落の状況

項目	集落数	割合
孤立化するおそれのある集落数	269	—
避難所あり	163	60.6%
耐震性あり	108	66.3%
非常用電源の確保あり	55	33.7%
生活用品等の備蓄		
飲料水の備蓄あり	33	12.3%
食料(主食)の備蓄あり	27	10.0%
医薬品等の備蓄あり	9	3.3%
毛布の備蓄あり	39	14.5%
投光機の備蓄あり	26	9.7%
防水シート(ブルーシート)の備蓄あり	8	3.0%
トイレの備蓄あり	16	5.9%
情報通信手段あり	115	42.8%
情報通信手段の平時からの操作訓練あり	63	23.4%
情報通信手段の操作マニュアル・手引あり	57	21.2%
情報通信手段に障害が発生した場合の他の連絡方法あり	5	1.9%
ヘリコプターの離着陸場の候補地あり	75	27.9%
ヘリコプターの離着陸場の候補地がない場合のホイストで昇降できる場所あり	87	44.8%
各市町村における受援計画あり	137	50.9%
孤立化するおそれのある集落における地区防災計画あり	84	31.2%
自主防災組織あり	245	91.1%
集落内での救助資機材の有無		
バールあり	28	10.4%
ジャッキあり	11	4.1%
可搬ウインチ, チェンブロックあり	7	2.6%
斧, なたあり	15	5.6%
のこぎりあり	15	5.6%
チェーンソー, エンジンカッターあり	31	11.5%
その他の救助資機材あり	2	0.7%

### 【孤立化するおそれのある集落についての主な調査結果概要】

- ・ 調査対象とした中山間地域の農業集落及び全ての漁業集落のうち、およそ5.6%の集落で孤立化の可能性があると判断されている。
- ・ 孤立化のおそれのある集落が交通途絶となる要因としては、ほとんどが、「豪雨や地震等に伴う土砂災害、道路への堆積土砂及び道路構造物の損傷など」であり、それ以外には「津波による浸水、道路構造物の損傷、流出物の堆積など」が約25%、「地震または津波による船舶の停泊施設の被災など」が約21%などとなっている。
- ・ 孤立化のおそれのある集落の中で、避難所があるのは約61%となっている。そのうち、耐震性があると確認されているのは約66%であり、非常用電源が確保されているのは約34%となっている。
- ・ 孤立化のおそれのある集落内で、飲料水の備蓄は約12%、食料の備蓄約10%であり、毛布の備蓄は約15%、トイレの備蓄は約6%などとなっている。
- ・ 情報通信手段については、約43%の集落で整備されている。
- ・ ヘリコプターの離着陸場の候補地がある集落は約28%となっている。
- ・ 孤立化のおそれのある集落において、自主防災組織を有する集落は、約91%となっている。